

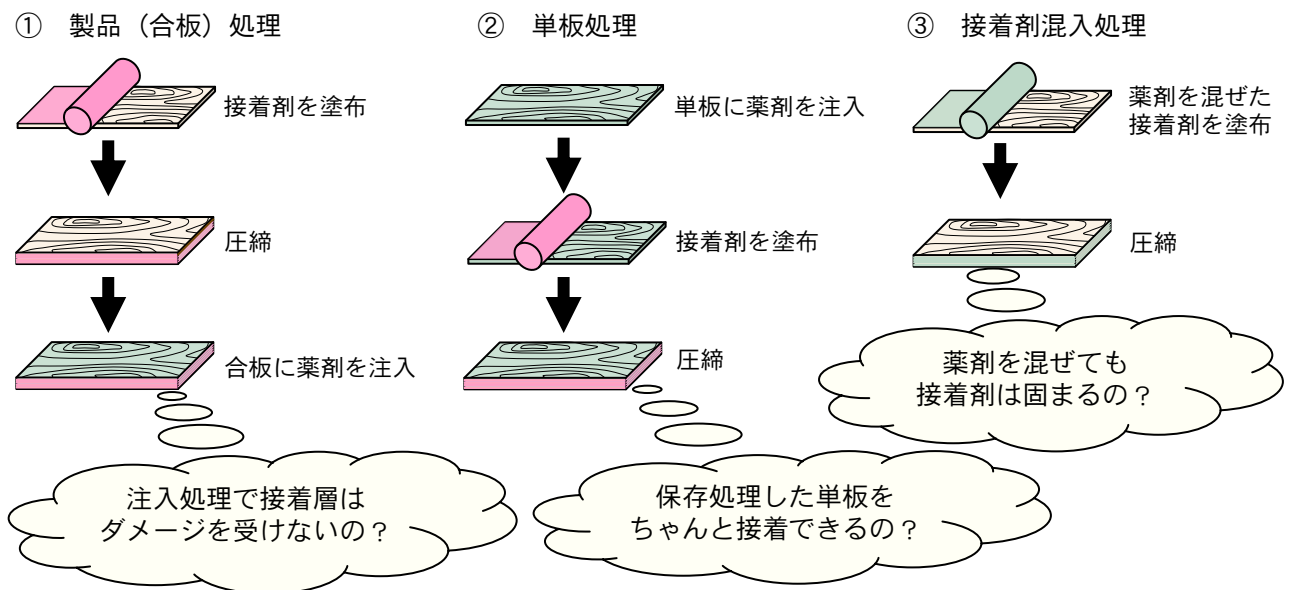
合板の耐久性向上のための保存処理技術とその接着性能

性能部 居住環境グループ 宮崎 淳子
 技術部 生産技術グループ 平林 靖

住宅を良好な状態で長く使用することによる、豊かな生活や環境負荷の低減の実現が求められています（「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」平成21年6月施行）。

住宅を長期間良好な状態に保つには耐久性の高い材料を使うことが必要です。そこで・・・
 部材の耐久性を高めるための 防蟻・防蟻処理（保存処理） が重要視されています。

合板の保存処理方法（保存処理合板の製造方法）



それぞれの保存処理が接着に及ぼす影響を調べました

表 保存処理合板の接着強さと保存処理が接着性能に及ぼす影響

	① 製品（合板）処理	② 単板処理	③ 接着剤混入処理
接着強さ	合板JAS ※特類をクリア	合板JAS特類をクリア	合板JAS特類をクリア
無処理合板との比較	有意差なし	有意差なし	有意差なし
接着性能への影響	構造用合板に薬剤を加圧注入処理しても上記の接着強さが得られました。	単板処理により表面のぬれ性が向上するため、接着剤の過浸透による接着不良が懸念されましたが、接着条件を適正にすれば上記の接着強さが得られました。	薬剤によって接着剤の硬化に影響する場合がありますが、熱圧条件を適正にすれば上記の接着強さが得られました。

※特類：屋外や常時湿潤状態となる場所で使用することを主な目的としており、合板JASで規定されている試験を実施して基準を満たした合板がこれに類別されます。

これらの方法で製造した保存処理合板の接着耐久性は、無処理合板との有意差はなく、構造用合板の特類を満たすことがわかりました。

この研究は森林総合研究所交付金プロジェクト「地域材を利用した保存処理合板の開発」（平成19～21年）で行いました。